

2023年11月30日

## 日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者：坂本 徹

## 1. 概要

歩行名称	北海道ブロック（4）
歩行区間	スタート地点：：JR小樽駅 ゴール地点：道の駅おびら
実施期間	2023年6月23日（金）～6月29日（木）
全歩行距離	185 km

## 2. メンバー表

No	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー・企画・運転・会計	坂本 徹	65	3日	ワングルOB24期
2	記録	蔵田 道子	74	3日	ワングルOB15期
3	記録	味沢 俊治	66	3日	坂本徹の大学1期先輩
4	記録・運転	岸田 英子	73	3日	坂本徹所属の山の会会員
5	記録	坂本 和子	59	3日	坂本徹所属の山岳会会員OB
6	記録	田口 馨	66	3日	坂本徹所属の山を楽しむ会会員
7	記録	米澤 俊枝	73	3日	坂本徹所属の山岳会会員
8	記録・運転	笠井 浩	61	3日	坂本徹所属の山岳会会員OB
9	記録・運転	笠井 初子	64	3日	坂本徹所属の山岳会会員OB
10	記録・運転	渡辺 正敏	70	3日	坂本徹所属のスキークラブ会員
11	記録・運転	小川万理子	63	3日	坂本徹所属のスキークラブ会員

## 3. 歩行の概要

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者
1	6/23	羽田空港昼便にて新千歳空港へ、レンタカーにて小樽市に移動、小樽市内名所旧跡巡り	—	
2	6/24	JR小樽駅→望来浜	58.0 Km	メンバー表記載の11人
3	6/25	望来浜→雄冬岬	59.9 Km	同上
4	6/26	雨竜沼湿原トレッキング	—	同上
5	6/27	雄冬岬→道の駅おびら	67.2 km	同上
6	6/28	旭山動物園と美瑛・富良野	—	
7	6/29	札幌名所旧跡巡り	—	
合計			185.1 km	

#### 4. 参加費・費用

(1) 歩く会会費(参加費) 参加者延べ日数3日\*100円(11人分) 合計 3,300円

#### (2) 一人当たりの費用

- ① レンタカー (借料・保険 11,015円、ガソリン 2,200円、高速料金・駐車料金 1,860円) 15,075円
- ② 宿泊料 1泊目:ドリーイン小樽(1泊朝食付)〔旅行支援有〕カプセル5,190円、ツイン8,586円  
2泊目:サンルート札幌(1泊朝食付)〔旅行支援有〕シングル7,980円、ツイン6,552円  
3泊目:サヒルス・ライ(1泊2食付)〔旅行支援有〕シングル8,000円、ツイン6,800円  
4泊目:ホテル神居岩(1泊2食付)〔旅行支援無〕シングル10,650円、ツイン10,150円  
5泊目:高砂温泉(1泊2食付き)〔旅行支援有〕シングル8,576円、ツイン8,176円  
6泊目:札幌すすきの駅近くのホテル(飛行機と宿泊1泊分のパック商品などで各自調達)  
宿泊料の合計 40,264円~40,396円
- ③ 飲食代 1日目(6/23)夕食・交流会代(一部地域クーポン充当) 4,000円  
2日目(6/24)夕食・交流会代(一部地域クーポン充当) 3,500円  
3日目(6/25)夕食時飲み物代 (クーポン利用) 0円  
4日目(6/26)夕食時飲み物代 300円~1,200円  
5日目(6/27)夕食時飲み物代(一部地域クーポン充当) 600円~1,200円  
6日目(6/28)夕食・交流会代 3,500円  
飲食代等の合計 11,900円~13,400円
- ④ 通信費・資料代・記録写真集代 2,500円
- ⑤ 抗原検査キット代 300円
- ⑥ 施設入場料:小樽クルーズ負担ゼロ(1,800円 地域クーポン利用)、旭山動物園900円  
三浦綾子文学記念館600円、開拓の村700円、羊ヶ丘展望台600円 合計2,800円
- ①~⑥ 総計 72,839円~74,471円
- ⑦ 地域クーポン充当額(7,000円)充当後 65,839円~67,471円

#### (3) その他各自支払費用

- ① 新千歳空港往復チケットとホテル1泊付きパック商品〔全国旅行支援適用有〕 31,300円
- ② 交通費(羽田までの交通費)
- ③ 昼食代、お土産等は各自支払

#### 5. 歩き方

##### (1) 歩行の班編成:4班(各班2~3名)で分担・分割方式で歩行

- ①メンバーの体力を勘案して、ハヤブサ班(歩行距離19~23km程度)とチーター班(歩行距離15~19km程度)とウサギ班(歩行距離11~14km程度)とカメ班(歩行距離10~11km程度)に区分して、メンバーの希望を考慮して決定しました。
- ② 班長は、歩行一日目は北海道歩行経験者を配置しました。

- ③ 班編成は、カメ班に蔵田道子を固定（本人希望）、レンタカー運転者の配置を勘案して、班メンバーは日替わりで編成しました。
- ④ ハヤブサ班は、青森県歩行経験者（毎日 20 km 歩行：笠井浩、笠井初子、味沢俊治、坂本和子、坂本徹）、8月富士山登山参加者（田口馨、岸田英子）を配置しました。
- ⑤ 班編成の同行者は、2回同じ班とならないように配置しました。
- ⑥ カメ班は、現地状況と本人希望により他の班からカメ班に変更となる者を想定して2名としました。結果としてカメ班に変更した者はいませんでした。

班編成	班と歩行距離	班 長	メンバー	
6月24日(歩行1日目) 歩行距離 58.0 km	ハヤブサ班 18.9 km (小樽→銭函) ホテルから出発	坂本徹 (運転)	笠井浩	味沢俊治
	ウサギ班 13.5 km (銭函→ハマスプ ロムナート)	岸田英子	渡辺正敏 (運転)	笠井初子
	カメ班 10.8 km (ハマスプ ロムナート→番屋の湯)	蔵田道子	小川万理子 (運転)	
	チーター班 14.8 km (望来浜→番屋の湯)	坂本和子	米澤俊枝	田口馨
6月25日(歩行2日目) 歩行距離 59.9 km	ウサギ班 11.6 km (望来浜→道の駅石狩)	味沢俊治	渡辺正敏 (運転)	田口馨
	カメ班 10.1 km (道の駅石狩→濃昼海浜)	蔵田道子	笠井初子 (運転)	
	ハヤブサ班 19.7 km (濃昼海浜→はまますピリカビーチ)	笠井浩 (運転)	坂本和子	岸田英子
	チーター班 18.5 km (はまますピリカビーチ→雄冬岬)	坂本徹 (運転)	小川万理子	米澤俊枝
6月27日(歩行3日目) 歩行距離 67.2 km	ハヤブサ班 23.2km (雄冬岬→増毛駅跡)	坂本徹 (運転)	笠井初子	田口馨
	チーター班 16.8 km (増毛駅跡→道の駅るもい)	笠井浩 (運転)	渡辺正敏	米澤俊枝
	カメ班 11.0 km (臼谷海水浴場→道の駅るもい)	蔵田道子	岸田英子 (運転)	
	ウサギ班 16.2 km (道の駅おびら→臼谷海水浴場)	味沢俊治	坂本和子	小川万理子 (運転)

(2) 歩行の効率化のためレンタカー2台（トヨタ ノア8人乗りとカローラフィルダー5人乗り）を併用



を天気の良い日に実施（当初6月27日を予定したが、天気予報を勘案して6月26日に実施）しました。

また、名所旧跡巡りは、初日に小樽の名所旧跡巡りとして、「旭展望台」と「小樽運河クルーズ」。6月28日は歩行予備日としていましたが、計画どおり歩行できましたので、旭山動物園見学と美瑛・富良野の名所旧跡めぐりを行いました。最終日の6月29日は、北海道開拓の村とさっぽろ羊ヶ丘展望台を巡りました。藻岩山登頂は、大雨で観光自動車道が通行止めとなり断念しました。



第4回歩行スタート地点の小樽駅にて集合写真

日本の海岸線を歩く旅は、「日本再発見の旅」「人との出会いの旅」「参加者の交流と結束によるチーム力発揮の旅」と考えています。参加者は、北海道の絶景や名所旧跡などに出会い、現地の人々と交流し、北海道の歴史を垣間見て、新たな発見があったことと思います。また、お互い交流を深め、健康で歩ける幸せを感じながら歩く旅ができたと思います。

今回の歩行ルートには長いトンネルが多くありました。第2回・第3回歩行と同様に単調なトンネル歩行では歌を歌いながらの歩行を試みました。また、トンネル内での安全確保のため反射安全ベストを着用し、赤色LED点滅誘導棒を持って歩行しました。

今回も第1回・第2回・第3回と同様に参加者間の連絡手段として、グループLINEを作成しました。各班から歩行状況と写真が頻繁にアップされて、一緒に歩いているという一体感を持つことができました。

私は、1993年～1998年の5年間札幌市に在住して道内を巡りましたが、今回歩行したところは訪れる回数が多かった地域です。今回歩行目線で見ることができて、多くの新しい発見がありました。

なお、今回歩行では、パック商品（往復航空券と1泊分の宿泊施設：5,000円引）、宿泊施設（20%引）、地域クーポン（平日2,000円、休日1,000円）について全国旅行支援の適用を一部受けて経費節減を図ることができました。



第4回歩行ゴール地点道の駅おびらにウサギ班が到達後、全班が道の駅るもいにて集結して集合写真

## (2) 行動記録

《1日目(6月23日)》 天気 曇りのち時々雨：昼便の飛行機で羽田空港から新千歳空港に移動、レンタカーで小樽市に移動して市内散策と小樽運河クルーズ

参加者8人(早朝便利用の味沢俊治さん、広島空港からの渡辺正敏さん、小川万理子さんを除く)は、10時20分羽田空港第1ターミナル2階の出発ロビーに集合した。羽田空港(JAL513便)11時20分発、新千歳空港12時55分着の飛行機で移動。新千歳空港到着ロビーで渡辺正敏さんと小川万理子さんと合流。新千歳空港からオリックスレンタカーの送迎バスに乗って10分程で新千歳店に到着。



羽田空港から搭乗した JAL513 便

ここは各レンタカー会社の新千歳店が密集しており、広大な敷地に多数のレンタカーが置かれており、壮観であった。

レンタカー(8人乗りノアと5人乗りカローラ・フィルダー)を借り受けて、小樽市郊外の「旭展望台」へ。ここで味沢俊治さんと合流した。旭展望台からは、小樽港と市街中心部を眼下に見下ろすことができ、遠くにこれから歩行する石狩湾や暑寒別岳を望むことができた。駐車場近くには、小樽ゆかりのプロレタリア作家 小林多喜二の文学碑があり、ここで全員の集合写真を撮影した。ここからカトリック小樽教会富岡聖堂に立ち寄って小樽駅前のドーマーイン PREMIUM 小樽に移動して16時00分チェックイン。



小林多喜二の文学碑の前にて



「旭展望台」からの展望



石狩湾と暑寒別岳を遠望する

ホテルから散策しながら小樽運河に移動し、小樽運河クルーズ（40分周遊コース）で運河から小樽市街の景色を見渡しながら、40分間のクルージングを楽しむ。



小雨が降り始めた小樽運河クルーズ



クルーズ船から小樽市街を見渡す

クルーズ下船後に小樽市街を1 km程散策しながら「海鮮居酒屋 マルカツ小樽水産」に到着。18時30分から夕食&交流会を行い、初対面の参加者もいるため自己紹介を交えながら歓談した。



海鮮料理に舌鼓



海鮮料理を食べた後のミーティング

交流会後は、夜景となった小樽運河に立ち寄って21時55分ホテルに戻った。ホテルでは、夜食として「夜鳴きそば」無料サービスがあり、頂いた者あり。(坂本徹 記)



小樽運河の夜景を背景に



小樽運河の倉庫群

《2日目(6月24日)》 天気 晴れ：小樽駅—58.0 km→望来浜

6時30分から、各自ホテルの朝食を済ませて8時00分にロビーに集合した。ホテル前で集合写真を撮り、今朝の歌(銀色の道)を合唱、ミーティングをし、ハヤブサ班以外はレンタカーで歩行開始地点に向かって8時30分出発。



ホテル前で集合写真を撮り、今朝の歌の合唱





ウサギ班がスタート地点に向かう



チーター班とカメ班がスタート地点に向かう

【ハヤブサ班：小樽駅→18.9 km→銭函海水浴場】メンバー：坂本徹、笠井浩、味沢俊治

8時40分、小樽駅を出発。中央通りからアーケード街を抜け、かつて「北のウォール街」と称された銀行通りを下る。北海道拓殖銀行に勤務した小林多喜二が『蟹工船』を書いた時代だ。運河の東縁にある出抜小路火の見櫓に登る。路上の修学旅行の女子高校生に、ここからの小樽運河の眺望は最高だよと声を掛けるも、女子高校生はげげんな顔で無視。



スタート地点の小樽駅にて



出抜小路火の見櫓から小樽運河を見渡す

港の倉庫街を横切り、フェリー埠頭へ。航路は新潟・敦賀・舞鶴とつながる。さすが北の玄関口である小樽、ロシア語の注意表示が印象的。40年前に訪れた石原裕次郎記念館は、そのまま「Marine Wave Otaru」となる。過去は野外の裕次郎のヨットが語るのみ。



フェリー埠頭



裕次郎のヨット

港からはなれたあと、何度も海岸に近づこうとするも、海に鉄道がせまり、国道は山よりを走っているため、難しい。国道に沿って海岸段丘上の住宅地を抜ける。ここ朝里は小樽市のベットタウンで瀟洒な家が多

い。そのなかの「じゅらく台公園」で休憩。

そして、今日通過した唯一のトンネル。この張碓トンネルが開通する昭和9年まで、ここは「馬車の通行にも不自由な」「廃道に近い状態」の国道の難所だったと「札幌国道開通記念碑」にある。高速道路と国道が交差する張碓橋の下に日陰をもとめて昼食。



新張碓トンネル



札幌国道開通記念碑



張碓橋の下で昼食

高速道路を慎重に横断し、旧道に出る。ここは、国道・高速道・旧道の三本が通っている。ここで旧道に架かる素晴らしい橋に出会った。昭和8年につくられた張碓橋。建築遺産に指定されている。

しばらく行くと、海岸段丘上の畑がそのままオーシャンビューを売りにした住宅地に再開発された銭函一丁目に入る。



建築遺産の張碓橋



函館本線の踏切を渡り、銭函駅へ



坂を下り函館本線の踏切を渡り、銭函駅に到着。駅前の国道を横切ると本日の目的地の銭函海水浴場駐車場に14時30分に着いた。（味沢俊治 記）

銭函海水浴場駐車場



【ウサギ班：銭函海水浴場→13.5 km→ハマナスブロード】メンバー：岸田英子、渡辺正敏、笠井初子  
銭函海水浴場車に車を停める場所を探すと竹田駐車場 500 円を見つける。昨日までは無料、本日より営業と管理者より説明あり。トイレもあり、整備されていて 500 円は格安かも。

9時 30 分出発 オープン予定であろう準備中の海の家を見ながら大浜海岸を歩く。北海道の海で少し早い海水浴をする女の子や仮装？をした学生？等を見ながら歩き 10 時 05 分浜辺で休憩をとる。大きな新川に出るが渡る橋は遠く、川沿いを歩いて行くと途中で魚釣りをしている方に会う。何が釣れるのかと話しかけていると後からもう 2 人釣りにやって来る。帽子にオニヤンマくんが付いていた。美しい川沿いの緑とゆるやかな川、風が心地良い。



大浜海岸を歩く

河川用地「札幌市指定史跡手稲山口バッタ塚」の看板を草の中から発見する。工場沿いを通り、11 時 30 分バッタ橋を渡り、11 時 45 分第一新川橋を渡る。舗装道路が暑い、日陰を探しながら歩くがなかなか無い、近くにある会社の大きな看板の日陰を見つけてやれやれと、12 時 20 分お昼休憩とする。石狩新港機械金属工業団地付近を歩く。広大な団地内は拡張工事が行われていた。同じような道を歩き、ここからが長く感じた。防風林？なのか、道路沿いに植わる木々は、どんぐりの木や青々とした笹が多かった。



バッタ塚



第一新川橋から見渡す

14時00分木陰で休息。近道と思った石狩湾新港では立ち入り禁止区間がありその場所を避けて道路沿いに出てからハマナスプロムナードの駐車場に14時38分到着。(笠井初子 記)



道路沿いを目的地に向かって



ハマナスプロムナードの駐車場に到着

**【カメ班：ハマナスプロムナード→10.8km→番屋の湯】メンバー：蔵田道子、小川万理子**

10時51分いざ初陣へ。駐車場から続く防波堤の沢山の太公望を横目に見ながら沿岸道路を進む。専用の埠頭となっているようで、あちこちに関係者以外立入禁止の札が。対岸の埠頭が見えているのに一向に辿り着かない。やっと辿り着いた埠頭の出口では、作業船が巨大な脚(風力発電用!?)を設置中だった。



いざ出発



沿岸道路を進む

埠頭から離脱後はコンビナートが立ち並ぶエリアへ。コンビナート群を抜けて望洋橋までやってきて(12時39分)ようやく海岸線が近くなったところでしばしの昼休憩(12時45分)を取った。



コンビナートが立ち並ぶエリアを進む



望洋橋の前で

13時再出発。海岸線を歩行することはできず、サイクリングロードにもなっている沿岸道路をひたすらゴールへ向かって歩き続ける。木陰もない道路端にオニユリが咲いていた(13時41分)。



昼休憩



オニユリが咲いていた

延々と同じ風景が続き目標物となる物もなく、自分たちの位置を見失う。Google マップを頼ったところ、ゴールまで後 10 分と表記。半信半疑ながら歩き進むと・・・。

そこはゴール地点の番屋の湯。14 時 47 分ゴールした。

追伸：カピバラのいる番屋の湯はマイカラーのオレンジ色のお湯だった。  
(小川万理子 記)



番屋の湯のカピバラ



目的地の番屋の湯到着

【チーター班：番屋の湯←14.8 km←望来浜】メンバー：坂本和子、米澤俊枝、田口馨

望来浜 10 時 20 分、身支度を整えスタートする。好天気の中、満開の黄色やピンクの花々を見ながら進む。

海岸線歩きに挑戦してみるが残念ながら厳しい状況。どこまでもまっすぐな道、人 1 人歩いていない。たまに乗用車とバイクにすれ違った程度。正利冠川（マサリカプガワ）になる。1 時間ほど歩き休憩する。



身支度を整えスタート

ポツンと可愛い小さなお店がある。そこから音楽が聞こえてくる。ランチをやっているお店でこじんまりとした素敵なただずまいのお店である。

さらに行くと広々とした景色に変わる。聚富（シップ）原生花園と看板があり、ニッコウキスゲなどが咲いている。

そろそろお昼、米澤さんと坂本さんがきれいな音のする熊よけ鈴を鳴らしながら、二人の後ろについて海岸を目指し、道を分け行って海岸に到着した。スタートして初めて真っ青な空と穏やかな海を見ながら、お昼をいただく。美味しい！30分休憩の後、来た道に戻って歩き続ける。



道を分け行って海岸に到着



真っ青な空と穏やかな海を見ながら、お昼

知津狩川（シラツカリガワ：石狩川最後の支流、一級河川）に来る。右に風車がある。石狩市オロロンラインを通り、石狩灯台が遠くに見えていたのがだんだん近くに見える。



知津狩川（シラツカリガワ）



風車

大きな石狩川にさしかかり、橋を渡る頃には、初めてはっきりなしの車の音を耳にする。この時が14時40分である。信濃川、利根川に続く長さの石狩川を越え、番屋の湯を目指す。番屋の湯到着は15時20分、出発してから5時間で到着（時速3km）した。  
(田口馨 記)

遠くに見えた石狩灯台が近くなってくる



番屋の湯に入浴して爽やかな気分で16時10分出発。百合ヶ原公園に16時50分到着、園内を百合の花などを見ながら散策。ホテルサンルート札幌に移動し、18時20分チェックイン。ホテルから徒歩6分にある「刺身と焼魚 北海道鮮魚店 北口店」で19時00分から夕食&交流会、各班から行動報告と感想を出し合いながら、楽しく歓談をした。



園内に咲いていたユリ



撮影ポイントでポーズ

《3日目（6月25日）》 天気 晴れ：望来浜—59. 9 km→雄冬岬



ホテル裏口前にて集合写真



今朝の歌を合唱

ホテルの朝食は7時00分から、各自朝食を済ませて8時00分にホテルロビーに集合した。ホテル前で集合写真、今朝の歌（心の旅）を合唱、ミーティングをし、レンタカーで歩行開始地点に向かって8時30分出発。

【ウサギ班：望来浜—11.6 km→道の駅石狩】メンバー：味沢俊治、渡辺正敏、田口馨

一昨日の小樽で夕立が降ったものの、天気は昨日に続き快晴。今日のメンバーは味沢・渡辺・田口の3名。望来海水浴場から道の駅石狩までの11.6Km。班長の味沢氏「今日は、距離も短いし、16時までには着けばいいので、余裕だよ」と。



きれいな砂浜で歩行開始

7月1日に海開きということで砂浜はきれいに掃除がしてあり快適に歩行開始(9時33分)。砂浜沿いの海の家や別荘を眺めながら30分程歩いたところで最初の休憩(10時00分)。やがて砂浜は無くなりガレ場に。流木がゴロゴロし、思わず手ごろな流木を拾ってストック代わりにする。やがて防波堤の間に船着き場があり、その横の小屋(木村漁業)でお母さんと娘さんがホッケの開きを作っていて、思わず購入(11時35分)。更に狭くなった海岸沿いを進み眺めのいい開けた所で昼休憩する(12時10分)。



渡渉を断念して橋を渡る





海岸線を進み、小さな沢を越える

ホッケの開きを購入

海岸線をドンドン進み、厚田発祥の地に到着(13時15分)。ここをほぼゴールだと勘違い。16時まで2時間以上あるからと、神社にお参りしたり、釣りをしている人を眺めながら散歩したり。



厚田発祥の地の石碑



神社にお参り



国道に出て学校の隣がゴールの道の駅のはずが、学校がない。道の駅がない。携帯のGoogle マップで現在地を確認すると、なんとゴールまで5～6 Kmはある。それからは国道をダッシュで歩いてゴール手前の神社に15時半到着。学校の隣の道の駅に16時到着。



厚田神社



道の駅に向かって急ぐ

結果、11.6Kmの半分海岸を歩き半分は国道を歩いた休憩、道草のウサギ班であった。

この日は日曜日、道の駅の駐車場はほぼ満車。バイク集団もあちこちに止めて・・・車を見つけ、いざカメラ班ピックアップに濃昼海岸へ出発。車のナビに入力も読み方が分からない。濃昼(のうひる?こいひる?)携帯のナビで何とか濃昼(ゴキビル)海岸へ。北海道の地名はアイヌ語に漢字が当ててあって難しい。

追伸:小石の海岸で、波が引くときにカラカラと鳴ってる処があり、しばし黄昏てました～(11時45分)

(渡辺正敏 記)

【カメ班：道の駅石狩ー11.0 km→濃昼海浜キャンプ場】メンバー：葺田道子、笠井初子

10時15分 道の駅石狩を出発。



道の駅に駐車



マーガレットの中で



濃昼山道

道の駅は日曜日のせいか、かなりの人出だ。今日は、目的地まで、国道 231 号線をいく。道は緩やかな登りだ。

11 時 00 分 国道を進んでいくと、少し入ったところに一面にマーガレットが咲いている場所があり、写真を撮りつつ、休憩する。

11 時 15 分 再び山の斜面が迫った道歩く。途中、この日のゴール、濃昼(ゴキビル) 海浜キャンプ場近くまで続く山の中腹をいく道に入る登山口がある。国道 231 号線ができる前は生活道路として使われていたようだ。そこから 10 分程で滝の沢トンネルに入る。今日のカメ班の分担は、トンネル部分が長く、コースの半分近くを占める。



新赤岩トンネルの出口にて

ゴールの濃昼キャンプ場

12 時 30 分 第一のトンネルを通過し終わり、そこで昼食。いい具合にトンネルの電気設備の建物があり、入口の階段に腰掛けて食事。

12 時 10 分 昼食を終え出発すると、次の大島内トンネルに入る。このトンネルは、滝の沢トンネルの 2 倍の距離、45 分程で抜ける。

14 時 00 分 抜けた所で休憩。

14 時 10 分 第 3 のトンネル、新赤岩トンネルは 1 番短く 20 分程で終わり、トンネルを出るとゴールのキャンプ場はすぐだった。キャンプ場に行く途中に上述の道の出口と思われる登山口があり、休憩用の小さな小屋も建っていた(鍵のかかったトイレあり)。キャンプ場付近から渚に行ってみると、水は綺麗で波もなく、小さいけれど、素敵な海水浴場に見えた。北海道で海水浴ができるのは、この日本海側だと言う。キャンプ場入り口に戻るが、ここまで車が入って来られないようなので、先ほどの小屋付近で車を待つことにした。

15 時 30 分、本日の歩行を終了。

(蔵田道子 記)

【ハヤブサ班：濃屋海浜キャンプ場→19.7km→はまますピリカビーチ】メンバー：笠井浩、坂本和子、岸田英子  
ホテルの朝食をすませ、一路石狩市厚田区の濃屋（ごきびる）海浜キャンプ場で下車。

10時13分 キャンプ場を歩き始める。この地区の情報を収集する為、札幌からわざわざブリを買いに来たという通りがかりのおじさんと立ち話。この狭い入り江の濃屋地区にある、旧木村家番屋や廃校になった中学校校舎を散策する。国道へのショートカットコースは無かったので、再び元の場所に戻って10時40分再スタート、R231号を辿る。道路歩きは大変暑い。



スタート地点の濃屋キャンプ場入口にて

11時05分 濃屋トンネル手前で15分休憩。



廃校となった中学校校舎



旧木村家番屋

11時30分 竜神橋近くにある神社の鳥居で、笠井さんだけ社殿（祠）を探しに上まで行ってくる。

尻苗トンネルを越え12時15分木巻トンネル出口で昼食休憩。日影も広場も無くガードレールの内側でやっと座る。

12時30分 再び歩き始め、旧道分岐の少し手前で「送毛川下流の小さな集落に寄ってみよう」という笠井さんの提案で林道らしき道を下ってみるが、立派な碑のある所で道が途絶えてしまい先に進めず、引き返すことになった。



竜神橋近くにある神社の祠



この碑の前で道がなくなった

13時00分、R231号から旧道（送毛山道）への分岐を左側に入る。この旧道は舗装してあって車も通れるのだが、新たに「新送毛トンネル」が開通しているため今では通行する車もほとんど無い。又、北から南へと貫く送電線に沿って縫うように左右に蛇行しながら昆砂別（ビシャベツ）の集落まで続いていた。すれ違う人も皆無で、静かすぎて鈴を鳴らしながら山道を進む。

14時40分 尾根の山頂（峠）付近で10分程休憩、今までひたすら登りが続いていたがここからは下りが始まり、正に今日は峠越えのコースだ。

14時54分 千本ナラの2本の巨木や「冷水波切不動堂」をざっと見て先を急ぐ。暑さと単調な山道で疲れもたまってきた。



千本ナラの巨木

冷水波切不動堂



昆砂別園地

眼下に目指す海岸が見える

下ってきた途中 15時20分、昆砂別園地というトイレのある公園で5分休憩する。

ようやく眼下に目指す海岸が見え始め、昆砂別の集落に向け最後の下りを快調に進み、途中送電線の下刈り払いしてある斜面を下るショートカットも試みる。この頃目標の16時到着は難しくなり、雄冬で我々の車を待つチーター班に連絡を入れる。

16時10分 毘砂別川を渡った所で砂浜に下り  
30分程強い西日の中海岸伝いに歩く。



砂浜に下りて海岸を歩く

再び車道に戻り、後ろから来た渡辺車に追い抜かれながら17時00分ゴールのはまますピリカビーチに到着する。しかし車が見つからず、20分程右往左往して探し回り疲労がピークに達した頃、ようやく車に辿り着いた。

(坂本和子 記)



ゴールと思ったピリカビーチ



実際のゴールのピリカビーチ

【チーター班：はまますピリカビーチ→18.5km→雄冬岬】メンバー：坂本徹、小川万理子、米澤俊枝

10時15分 ハヤブサ班を濃昼海浜で降ろし、浜益ピリカビーチ駐車場に到着10時35分。日曜日とあって、ビーチにはテントが沢山張ってあった。10時45分出発。



ピリカビーチ駐車場に駐車



スタート地点の写真を撮って出発

しばらく浜辺を歩く。家族連れが水遊びをしていた。浜益漁港にはホタテの養殖網が重ねられていた。車道に戻りまもなく、海を見下ろす「ふるさと公園」へ。おしゃれなレストランがあり中を覗き見した。立ち寄りた誘惑を我慢して外のテラスで休憩。11時40分～11時45分。広い車道をそれて細い道の方へ。右側の草茂る中に「旧浜益中央小学校」が建っていた、11時55分。



しばらく浜辺を歩く



廃校となった浜益中央小学校



ふるさと公園

道を直進するも途中で途絶え、やむなくやぶ漕ぎをして下り、広い車道へ戻った（藪の下には古い道らしきものが）。緩い下りの車道脇を快調に歩く。群別橋を過ぎ、新幌橋に近づいた辺りで坂本さんが、車道からそれて左手の小道を行くと言う。小さな橋を渡ったあたりで海岸へ降りる道を見つけ出し海岸へ。岩や石や流木などの丁度良い場所で昼食休憩、13時00分～13時25分。



岩や石や流木などの丁度良い場所で昼食休憩

それからしばらく海辺を歩き、まもなく長〜いトンネルの入り口へ 14時10分。反射安全ベストを着て、赤色誘導灯・ヘッドランプ・歌集を用意していざ！まずは二ツ岩トンネル（1,793m）。続いて 14時48分 浜益トンネル（4,216m）に入る。最初に坂本さんのリクエストに応じて『津軽平野』を歌おうとしたが車が絶えず往来し（日曜日のため）、その響き渡る音が止まないため、なかなか歌い出せず。結局それぞれで歌いながら、長〜いトンネル内を自分を励まし進んだ。



4, 216m 浜益トンネルを抜けて、ゴール直前

1時間余の歩行後に出口へ 16時04分。もう目の前に雄冬岬があった。到着 16時05分。左手には海、右手には「白銀の滝」見事！他の班が到着するまでの間、歌集を出して歌ったり、景色を眺めたりホットした時間が持てた。

(米澤俊枝 記)

ゴールしたチーター班



チーター班以外はレンタカーで雄冬岬に集結、雄冬岬で集合写真撮影後、新十津川町のサンヒルズ・サライに移動18時40分着。

レストランで夕食19時30分～20時40分、飲み物ラストオーダーは19時30分のためまとめて注文、食事を素早く済ませる。20時50分からホテルに依頼して確保したミーティングルームに移動して交流会、各班の行動報告と参加者感想を出し合って歓談した。



#### 《4日目（6月26日）》 天気 晴れ：雨竜沼湿原トレッキング

ホテルの朝食は7時00分から、各自朝食を済ませて7時50分にロビーに集合した。ホテル前で集合写真、今朝の歌（夏の思い出）を合唱、レンタカーで雨竜沼湿原ゲートパークに向かって8時00分出発。

途中コンビニにて昼食等を調達。車の中から雪溪のある暑寒別岳方面が見えた。途中から道幅はとて狭くなった。ゲートパーク（標高540m）9時15分着。他に20台ほど駐車してあった。身支度を整え（虫除けも怠りなく）準備体操をして9時42分出発。



ホテル前で集合写真



ゲートパーク登山口にて出発前に集合写真



準備体操

緩やかな上り道。川を渡る辺りで10時00分立ち休み。少しずつ段差が出てきた。日陰は風あり。途中、10時25分登山道から下へ『白竜の滝』まで下りた。眼前の滝は水量が多く迫力満点。気持ちいい～！涼感を充分頂いた。



吊り橋を渡る



白竜の滝に下る



落差36mの白竜の滝

10時40分 元の登山道へ戻り吊り橋を渡る。勾配のきつい『険竜坂』が始まる。蔵田さんが先頭で岸田さんが続き、ゆっくり確実に登った。川が左に近づく雨竜沼の入口にて休憩11時50分～12時00分。木道が始まる。憧れの雪渓の暑寒別山群が見えてきた。



白竜の滝展望台にて



雨竜沼湿原手前で休憩



雨竜沼湿原を歩く



『湿原テラス（標高850m）』にて昼食休憩 12時20分～12時45分。青空の下、広～い雨竜沼・暑寒別の山々を眺めながらの休憩は、何にも勝るごほうびだ。12時45分 蔵田さんをテラスに残し、他のメンバーで沼を一周する。木道を踏み外さないように気を付けながら、周囲を眺め見渡しては歩いた。他の登山者には3～4組会ったか？あまり覚えていない。本当に静かだ。花は既に水芭蕉は終わりもう夏の花になっていた。足元にはワタスゲが白い穂を揺らし、ツマトリソウ、キスゲ、アヤメ、リュウキンカ等々。池塘も珍しい形状があった。



暑寒別岳と雨竜沼湿原の池塘（上の写真）

湿原に咲くワタスゲ（下の写真）





ワタスゲ



エゾカンゾウ



エゾキンポウゲ



イワイチョウ



クロバナハンショウズル



ハクサンチドリ





13時47分『湿原テラス』にて蔵田さんと合流し、雨竜沼とは名残惜しみつつ13時57分出発。日差しは暑く急坂を慎重に下る。14時40分～14時45分休憩。吊り橋を渡り（雨竜沼から半分の表示あり）、『白竜の滝』を登山道から見ながら休憩15時15分～15時20分。沼なので虫刺されを心配したが天候のせい、幸いにも遭遇せず助かった。花はハクサンチドリ、クロバナハンショウズル（万理子さんに教わった）なども見れ慰められた。駐車場へ無事到着15時55分。トイレを済ませるのも慌ただしく16時00分宿へ向けて出発した。

（米澤俊枝 記）

途中、道の駅サンフラワー北竜とコンビニに立ち寄って、地域クーポンを使用する。ホテル神居岩に17時40分チェックイン、19時00分から夕食&交流会。青空の下で静かな雨竜沼湿原トレッキングができたことに大満足した一日だった。米澤さんから40年前の暑寒別岳と雨竜沼湿原の山行状況について、当時の山行報告などの資料をもとに披露いただきました。米沢さんリベンジおめでとうございます。

（坂本徹 記）



道の駅サンフラワー北竜のゲート



夕食&交流会

《5日目（6月27日）》 天気 晴れ：雄冬岬ー67. 2 km→道の駅おびら

ホテルの朝食は7時00分から、各自朝食を済ませて7時50分にホテルロビーに集合。ホテル前で集合写真、今朝の歌（鉄腕アトム）を合唱して8時00分出発。途中レンタカーにガソリン給油し、各班のスタート地点へ。



ホテル入口で集合写真

【ハヤブサ班：雄冬岬ー23. 2 km→増毛駅跡】メンバー：坂本徹、笠井初子、田口馨

雄冬岬9時20分スタートする。増毛町雄冬橋、とど岩橋を過ぎ、広々とした雄冬野営場を見る。「国道231号線開通記念の碑」にて写真を撮る。



スタート前に気合を入れて



国道231号線開通記念の碑にて

雄冬漁港9時40分。「美味しさ旬街道」の大きい看板。



真っ青な海岸線を左に見ながら歩みを進める。10時10分赤岩岬。岩尾トンネル(90m)になり、工事をしているため、ガードマンが、ずっとついて出口まで一緒に歩いてくださる。銀鱗の滝を見て、黒岩トンネル(770m)に入る前に安全ベスト、ヘッドランプ、先頭の坂本さんが赤色誘導灯を持つ。



銀鱗の滝



ガードマンと撮影



トンネルに入る準備完了

ここからトンネルが続く。オロロンライン日方泊トンネル(2,900m)を出たところで、お昼をいただく。30分休憩をしたのち13時20分出発。マッカ岬トンネル(683m)、ペリカトンネル(394m)、大別刈トンネル(1,992m)、合わせてトンネルの距離が約6.7km。坂本さんが、みんなでリクエストした曲も含めた歌集を作ってくれたが、1冊まるまるトンネル内で歌った。楽しいひとときであった。

トンネルを抜け、さあ！気合いを入れ直して広い歩道をひたすら前を向いて、後ろについてくれている坂本さんを振り返ることもなく、笠井初子さんと話しながら早足で歩く。



最後の大別刈トンネル(1,992m)を抜けて

海岸線にあるバス停も立派である。留萌の別刈駐在所は海拔5mであった。ここで3時20分、歩みを進める。オーベルジュましけ(宿泊施設を備えたレストラン:増毛出身の三國清三シェフ監修)の建物を右に見る。やっと街中にたどり着く。日本最北の酒蔵「国稀(くにまれ)酒造」をちょっと覗く。



オーベルジュましけの看板



国稀(くにまれ)酒造の前にて

そしてやっと増毛駅跡へ 16 時 00 分に着く。また少し駅跡地を覗く。

坂本さんがレンタカーを回収して、いざ 3 人で出発したのが 16 時 20 分過ぎであった。大急ぎで集合場所へと向かった。



高倉健主演の名作「駅 STATION」の増毛駅前の風待食堂



廃駅となった増毛駅舎



今回歩行の最高区間距離 23.3 km を完歩して



レンタカーを回収して

この日、田口の歩数計は 42,000 歩を越えた。初めての記録と初めて 23 km 以上を歩いた日でもあった。

(田口馨 記)

【チーター班：増毛駅跡→道の駅るもい】メンバー：笠井浩、渡辺正敏、米澤俊枝

チーター班のルートは、ほぼ海岸線伝いでアップダウンもない。廃線になった鉄道が平行している。快適な海岸歩きを期待したが、コンクリート護岸やテトラポットが続き、歩けても丸石ゴロゴロであったりして結局車道歩き中心になった。

ハヤブサ班を 25 日に全員で滝を見た雄冬岬まで送り増毛駅跡へ。

9時45分 車を停めて増毛駅跡出発。増毛港を過ぎて歩き始めの海岸には、大きなアザラシ（アゴヒゲアザラシ？）の死骸が打ち上げられていた。気分も滅入り車道に戻る。海岸を歩こうと車道から探すがコンクリートの護岸が続く。ふと振り返ると雪山が遠くに見える。暑寒別岳か。



増毛駅跡出発



テトラポットの護岸が続く



廃線となった線路とトンネル



11時50分 わずかに海岸に降りることができて、コロコロと波に転がる小石の音が心地よいところがあった。12時00分 彦部橋手前のコンビニで昼食休憩。日陰が心地よい。12時50分 阿分・廃線跡のトンネル。13時10分 稲荷神社。14時10分 史跡旧留萌佐賀家漁場。昔日の鯨漁の賑わいを偲ばせる。ゴールデンビーチは人工の渚。海水浴のほかキャンプもできそうである。



コンクリート護岸が続く



コンビニの前で昼食休憩



稲荷神社



史跡旧留萌佐賀家漁場



ゴールデンビーチ



ゴールデンビーチの案内板にて



黄金岬に向かって進む



黄金岬波濤の門の碑にて



道の駅るもいに向かって進む



道の駅るもいに到着

15時45分 黄金岬の碑前で記念撮影。指定時間に間に合うか忙しくなってきたのでここよりやや早歩きとなる。明元町辺りは忠実に海岸線を歩きたかったがショートカットして最短ルート歩く。16時18分道の駅るもい到着。

後半思ったよりも距離があって黄金岬からは最短ルートでの早歩きとなってしまった。時間配分は難しく班長として反省しました。  
(笠井浩 記)

**【カメ班：道の駅るもい←11.0km←臼谷海水浴場】メンバー：蔵田道子、岸田英子**

ウサギ班とカメ班で今回歩行のゴール地点「道の駅おびら」に向かう。9時00分ウサギ班を降ろす。日本海の広い美しい海と鯨番屋は次回歩行のスタート時にじっくりと堪能することにし、カメ班のスタート地点に向かったが、見過ごして留萌市の街中の給油したガソリンスタンド近くまで戻ってしまった。慌てないようにカーナビで臼谷海水浴場を検索するが不可、通過した道路に戻り、ようやく臼谷海水浴場駐車場に到着。時間ロスしてもカメ班は余裕があるため、10時30分急がずに歩き始めた。



臼谷海水浴場駐車場を出発



三泊神社バス停留所

炎天下を進み、三泊神社バス停留所11時31分。12時45分昼休憩は町中に入る前の空き地で海風爽やかな木の小陰でとる。歩きながら感じた臭い匂いは、海産物廃棄物処理場があったからだった。留萌川にかかる青の橋を渡り、道の駅るもいに14時33分到着。



木の小陰で昼食



留萌川にかかる青の橋を渡る



道の駅るもいの標識を背景に

道の駅るもいでじっくり休んだため、疲れが回復した。留萌市と留萌線のビデオを見て、今年 4 月 1 日に留萌本線石狩沼田駅—留萌駅間の廃止に伴い留萌駅が廃駅となったこと、廃駅により列車の運行がなくなったため、線路跡を活用した通路を新設したこと、これに伴い駅西側と道の駅るもいをショートカットで結ぶことが可能になったことを知りました。駅線路跡を散策して、アイスクリームとコーヒーを美味しくいただき、全員合流予定時間の 16 時 20 分まで楽しく時間を過ごしました。  
(岸田英子 記)



廃液となった留萌駅舎とホーム

【ウサギ班：臼谷海水浴場←16.2 km—道の駅おびら】メンバー：味沢俊治、坂本和子、小川万理子  
松浦武四郎の像のわきでウサギ班とカメ班のメンバーで写真撮影のあと 9 時 10 分出発。



松浦武四郎の像の脇の「にしん街道」の標柱にて撮影



松浦武四郎の像

しばらく進むと「三船遭難慰霊之碑」。終戦直後、留萌をめざした樺太からの引揚船がソ連潜水艦攻撃をうけ 1708 名が小平沖で遭難の碑。



重要文化財「旧花田家番屋」



三船遭難慰霊之碑

浜に下りれず国道をひたすら南下。蛇の目沢川の先の無人の家の軒先に日陰を見つけて休息。



無人の家の軒先で休憩



浜におりて歩く

浜におりしばらく歩く。単調な砂浜歩きの慰めのように、小さな川とそれがつくる小さな潟湖がある。日陰がないため、休憩は河口に架かる橋の下。いったん浜に下りると、堤防上の高さは4メートル。浜をできるだけ歩きたいが、一度道路に上がるのも浜に下りるのも地図で見るほど易しくない。



小さな川とそれがつくる小さな潟湖



干潟の傍を歩く





河口に架かる橋の下で休憩



流木組んだ場所から国道へよじ登る



波消しブロックで砂浜が途切れる場所

12時半ごろ、坂本和子さんと小川万理子さんは流木組んだ場所をみつけて、浜から国道へよじ登ることができた。味澤はそのまま、砂浜を歩き続け、波消しブロックで砂浜が途切れる場所でやっと国道へ上がり、3人でひたすら望洋台海水浴場まで歩き、小平町の北端を流れる小平薬川（おびらしべかわ）のわずか4メートルほどの河口に到達する。700メートルほどの砂州によって大きくまげられた河口は、渡れそうな幅ではある。しかし、砂州の先端を離れると、700メートルほど上流の高砂橋までは200メートルほどの幅がある潟湖のようであり、川そのものは豊かな流量となっている。渡渉をチャレンジしたい気持ちもあったが、この川の水量と沿岸の波の激しさをみて断念した。



渡渉を断念した砂州の先端



実物大の恐竜のモニュメント



エラスモサウルス（長頸竜）の化石

砂州が長い年月によって海岸平野となった場所にある小平町は、恐竜の町である。町の入り口に、実物大

の皮膚の凸凹も色もリアルに表現された恐竜のモニュメントが立っている。町民ホールと併設されている町役場のラウンジに、その恐竜エラスモサウルス（長頸竜）の化石が展示してある。1987年に発見されたもの。ここで一休みしたあと、ひたすら海沿いの国道を歩き、目的地に14時45分に到着。（味沢俊治 記）

ひたすら海沿いの国道を歩く



目的地の臼谷海水浴場



全班が道の駅るもいに16時50分集結、全員で道の駅るもいを背景に集合写真を撮影。17時00分旭川市のスパホテル旭川 高砂温泉に移動、18時10分到着。

温泉入浴して19時30分から夕食&交流会、今日の各班の行動報告と感想を出し合ったが、全員が3日間計画どおり完歩したことから爽やかな気分で打ち解け合いました。また、有用情報の提供は、笠井浩さんから海外山旅の報告だった。



《6日目（6月28日）》 天気 曇り：旭山動物園と美瑛・富良野

7時00分から朝食、8時20分ロビー集合、集合写真を撮影、今朝の歌（宗谷岬）を合唱。

8時40分ホテルを出発、10分程で三浦綾子文学館に到着する。9時開館の為、敷地内の見本林の一角でラジオ体操をして体をほぐす。9時から40分間文学館を見学する。



高砂温泉玄関前で集合写真



敷地内の見本林の一角でラジオ体操



外国樹種見本林



三浦綾子文学館の外観



10時10分旭山動物園到着。12時にお昼集合ということで、各々お目当ての動物に向って自由行動となる。平日ではあったが入園者も多くさすがは人気ナンバーワン動物園である。

12時30分まで見学し動物園を後にする。

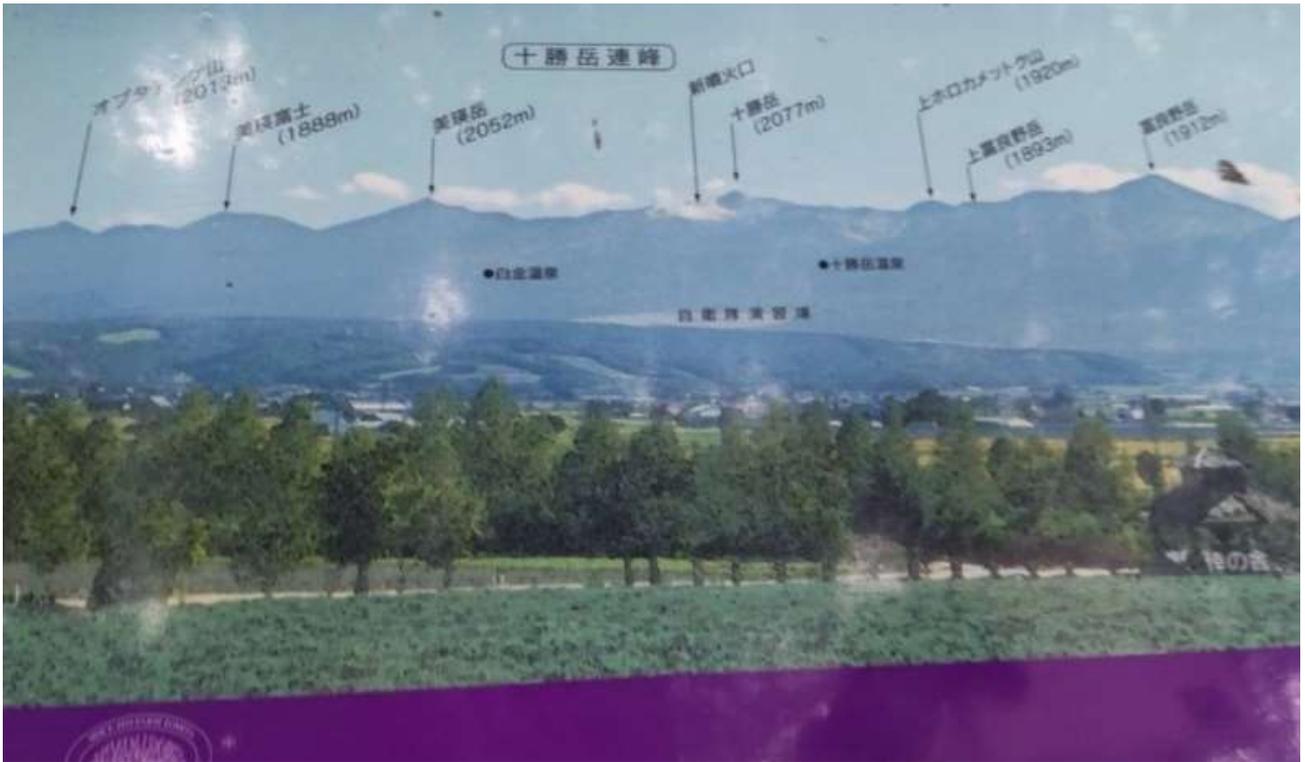


その後拓真館まで行くが休館日ということで、13時55分富田ファームに到着。ラベンダーソフトクリームやカットメロンに舌鼓を打ちながら、まだ少し早いラベンダーや花畑を15時まで散策する。旭山動物園以上の人の多さに、“ふらの”のネームバリューを思い知らされる。



富田ファームのラベンダー畑にて





富田ファームからの十勝岳連峰の展望（当日は曇りで眺望できず）

帰りの札幌に向かう途中、芦別市にある三段滝公園に立ち寄り（15時50分）、札幌までの車中、歌集片手に歌を歌いながら、18時ホテルに到着した。



三段滝公園の三段滝にて

19時00分からすすきの駅近くの「海鮮と炭焼 珀や（ひやくや）本邸」にて夕食&交流会。これまでの感想を出し合いながら歓談し、大いに盛り上がった

（坂本和子 記）

珀や（ひやくや）本邸を出て



《7日目（6月29日）》 天気 晴れ：北海道開拓の村、羊ヶ丘展望台

8時10分渡辺夫妻宿泊のスーパーホテル札幌・すすきのに集合、蔵田さんは別行動。

8時50分北海道開拓の村到着、まずは全員で馬車鉄道に乗車して開拓村の奥まで進む。自由行動とし、各自施設を見学する。10時40分集合し、羊ヶ丘展望台に向かう。



馬車鉄道に乗車



派出所の巡査とともに



馬車鉄道の車両内にて



北海道開拓の村の石碑の前にて

11時15分羊ヶ丘展望台着。クラーク博士像の前で集合写真撮影、写真集用に個人写真も撮影した。展望台からの眺望と施設見学の後、藻岩山に向ったが激しい雨が降り出した。



石原裕次郎記念碑にて



旅立ちの鐘にて

藻岩山観光自動車道路の入口まで来たが、大雨で通行止めとなっていた。このため藻岩山は断念し、小川万理子さんがネットで見つけた行列ができる札幌ラーメン店として知られる人気店「彩未」に行く。



雨天のため少し待つて入ることが出来た。観光自動車道路の通行止めが解除されないため、新千歳空港に向かった。オリックスレンタカー新千歳空港店に到着、15時40分現地解散となり、帰途についた。

(坂本徹 記)

良く働いてくれたレンタカー



トヨタ・ノア



トヨタ・カローラフィールダー

## 7. 参加者感想

### 【味沢 俊治】

海岸線歩行を何度か経験するうちに、心惹かれるようになったことがある。それは、東京では見られなくなったものを、うち捨てられた村や寂れた町の風景のなかに、発見することだ。古いものが新しいものにどんどん更新されていくのが東京だ。しかし、地方では人々の営みによってつくられたものは、過ぎ行くときのなかで、朽ち果てるにまかされている。高度経済成長の始まったころの風景が、この場所にはタイムカプセルのように残されている。そして、誰も顧みなくなった建物からは、切ないような妖気と胸苦しき、そして懐かしさが日々の営みに追われる人々の姿とともに胸に迫ってくる。

留萌の飲み屋街で「有楽トンネル」と名付けられた建物に出会った。

「トンネル」のアーケードの両側に店2軒。入口に記された「昭和三十



十四年五月十五日竣工 所有者伊藤重太郎」の文字と奥の「和風スナック ヨーコ」の看板。この場所は1960年代で時間が止まっている。当時の留萌の定住人口4万人弱、出稼ぎ労働者3万人とウィキペディアにある。現在人口2.2万である。



### 【米澤 俊枝】 雨竜沼へのリベンジ果たす

昨年の6月に参加し今回2回目の参加である。昨年初めてお会いした蔵田・岸田・味澤・田口さんとは1年ぶりの再会となったが、つい最近も会ったかのような近しさを感じた。

笠井夫妻・和子さんとは旧知の仲であり、初めては渡辺夫妻のみ。島根弁よろしく多才なお二人はユニークで、昨年にも増して個性豊かな御一行様となった。

1人で4班編成での歩行。車は2台。昨年より更に複雑になった行程を、坂本さんは簡単明瞭に組み立ててくれた。(脱帽!)。私は3日間チーター班という、力量以上のコースを無事歩き通せほっとしている。いつも最終地点間近では**気力**で歩いた。嬉々として歩く仲間がいること、海を身近に見れるということ、他の班も頑張っているという一体感。それらが力以上の力を引き出してくれた気がする。「銀色の道」や



「若者たち」を口ずさんだり、到着地点でのソフトクリームや、夜の生ビールを思い浮かべては自身を励ました。

雄冬・増毛・留萌・雨竜沼を40年ぶりに再訪できたことが、嬉しい！雨竜沼で青空の下、雪渓を残した増毛山群を見た時は思わず涙が出そうになった。あの日、この素晴らしい景色も知らずに友と二人、重い荷を背負いガスの中をただ黙々と歩いた。愛おしい思い出だ。

宿到着以降の夜のスケジュールが又、すさまじかった。私は3日間、入浴洗髪後の髪を乾かす暇が全くなく濡れたまま次の行動へと移った。後半2日間の観光もとても充実したものだ。全体を通して『若者並みのスケジュール』だと思った。行く前に風邪で寝込んで心配かけたご近所さんに、こなしたスケジュールを話せば、きっと卒倒！するだろうな？

### 【坂本 和子】

私にとって2回目になる北海道海岸線歩きも、ユニークな旅となりました。

北海道の母なる川“石狩川”の河口を眺め、旧浜益村の峠を越え、どこまでも真直ぐ続いている小平町の海岸線をひたすら南下する。そして前回に引き続き鯉漁の栄華の痕跡を辿る旅でもありました。又、石狩川の広い河口から支流である札幌市の豊平川や千歳川にまで遡上する鮭の、長い長い命懸けのラストランに前回同様思いを馳せました。

ただこの時期にしてこの暑さは想像以上で、温暖化の影響を痛感せざるを得ません。

旅の先々で地元の人達と話をする機会に恵

まれましたが、道外から訪れた私たちに対して、北海道や札幌で暮らすことの満足感や充実感をてらいなく嬉しそうに語って下さり、旅人に対する屈託のない包容力を持って接してくれました。かつて、不安交じりで札幌に住み始めた頃感じていた記憶や感触が急に蘇りました。どこまでも続く広々とした畑や大地に囲まれて、その中で生きているからこそその大らかな道民性みたいなものに久しぶりに触れる機会を得、懐かしく嬉しいひと時でした。

勿論個性豊かな皆さんとの会話や日々起こるちょっとした楽しいアクシデント？も、旅の忘れがたいエッセンスとして思い出に残ることと思います。ありがとうございました。



### 【田口 馨】

今回、初めてお会いする方が半数の5名の方でした。楽しみに当日を迎えました。

今回も、再会を楽しみにしていた方や、とても素晴らしい仲間に出会えて、充実した1週間を過ごさせていただきました。歩行時には楽しく話しながら、また夜の交流会では自己紹介や歩行の感想を出し合いながら親交を深めました。また有用情報の提供としてそれぞれ、薬剤に関する裏話、会報への投稿記事をもとに

した話、海外山旅の話など、とても興味深く聞くことができました。更に有用情報をもとに意見交換をして、とても勉強になりました。

連日、好天に恵まれて全員元気に行動できました。雨竜沼湿原、旭山動物園、美瑛・富良野な



ど行きたかったですが、実現して感動しました。

今回も参加させていただき、計画していただいた坂本さんにはほんとうに感謝しております。ありがとうございました。また素晴らしい方々とお会いできたことにも感謝しております。すべてに感謝し、これからの海岸線歩行も大成功を祈りつつ、ペンをおきます。

#### 【岸田 英子】

第3回歩行に続き参加することができました。坂本徹さん、ご一緒に歩行しました皆さまありがとうございます。坂本さんの工夫した企画、宿の手配、参加者に対するサポートに感謝します。全国旅行支援を活用した格安のパック商品、宿泊施設の確保は、年金生活暮らしの私にとって大変助かりました。

北海道の自然と空と風を身体全体に感じて、毎日リフレッシュできました。夕食時のビールと北海道の料理は、大変美味しく元気いっぱいになりました。

また、交流会での有用情報の提供では、豊かな経験をもとにした講話に刺激を受けました。長野松本市でのインターバル速歩については、私にとって大変良い情報となりました。帰宅して毎日実践しており、体の変化が感じられるようになりました。

次回第5回歩行に参加させていただきます。皆さん、よろしくお願いいたします。



### 【笠井 浩】

海岸線歩行参加4回目。ただし北海道は初めて。青森は全員で全コースを歩くけれど北海道は班を分けて全体で線を繋ぐ歩き方。参加者個人では線がつながらないので歩きの達成感は少し物足りない。ただ毎日違う人と歩き交流ができて違った楽しみがありました。みんな私より少ししか変わらないのに人生の師のようななかなか含蓄のある話を沢山聞かせて頂きました。

夜の日程がやや窮屈で少しずつ疲れがたまってしまった感じでしたが、班ごとに分かれ行動も別。宿泊も移動しながら毎日変わる中、計画どおりに旅ができたのは坂本さんの緻密な計算があつてのことと思います。ありがとうございました。

次回も皆さんとの再会を楽しみにしています。



### 【笠井 初子】

北海道の海岸線歩行は初めて参加させていただきました。以前参加された方がカメだ、うさぎだ、チーター??だとそれぞれの班に分かれて歩くコースがあると聞いていましたが、参加最初の日はさっぱり分かりませんでした。この緻密な計画を考えて完璧に実行する坂本さんは凄い！と新たに実感と感心をするばかりでした。私はうさぎ班、カメ班、ハヤブサ班に参加させて頂き毎回初めての方との交流があり楽しい班、楽しいコースでした。

なんといっても別々のコースの方の話しを聞いて、写真を見て夕食の楽しかった事。

雨竜沼湿原、旭山動物園、美瑛・富良野名所旧跡巡り、尊敬する三浦綾子記念文学館に行かれた事は私の大きな喜びの一つでした。

子供の頃の感動が蘇りました。御一緒させて頂いた皆様ありがとうございました。お世話になりました。

いつの日かまた御一緒させて頂ける日を楽しみにしています。



### 【渡辺 正敏】

3月の長野スキーツアーの際にこの6月北海道を歩く話を聞き、運転手での参加であればと希望したはずなのに、旭展望台から見える海岸線を歩くことに。

海岸線初日。ウサギ班として銭函海水浴場から発電所の裏にあるハマナスプロムナード西海岸の駐車場(13.5km)のウォーキング開始。海岸線で目標ゴールが見えて、リ



ュックも軽く、登りも無いので、山登りと違って快適。何とか時間内にゴールすることができました。

携帯の電池切れにより連絡不能となり、混雑した道の駅で迷子の館内放送。ゴールの勘違いによる、ラスト1時間の早歩き等々。予期せぬことが多々ある中、雨竜沼湿原、旭山動物園、ラベンダー、札幌ラーメン等、北海道を余すことなく満喫しました。何より、全行程歩けたことに安堵した次第です。

北海道も30℃超えの暑さでしたが、松江に帰ってからの30℃は湿度の違いかじとじと。北海道は爽やかでした。

### 【小川 万理子】

歩いて…車をピックアップして…???

行程表をもらってもさっぱり理解できず、皆様にご教授頂いて、ぼんやり状態でスタート。車を指定された(と思われる)場所に駐車したものの、後続のチームがこの場所がわかるのだろうかと不安に。地図を見て歩いているにも関わらず、変わらない風景に自分たちのいる場所を見失い、迷子状態に。スマホの地図アプリでゴールが近いことがわかった時はホッとしました。

また、トンネル体験は、初なのに最長という試練を賜り、歌集を見て歌いながら歩くなんで…とんでもない！高速道路並みのスピードで走ってくる車に歩道から落ちないようにするのが精一杯。なぜか「トトロの散歩」のワンフレーズ「～歩こー歩こー私は元気～」を呪文のように唱えていました。

丸々一週間歩くことができるのだろうかと不安でしたが、毎日が楽しく、あっという間でした。だんだん(ありがとう)でした。



### 【蔵田 道子】

今回は以前に比べて、人数が倍近くになりました。新しい方々と知り合うことができ、色々興味深い話が聞けて大変楽しい旅が出来ました。また、カメ班は距離が短いので、ゆっくり 行動しても余裕があり、地元の人々と話げできたことに、海岸歩行の醍醐味を感じました（例えば2日目）。ただ、人数が多くなると全体の動きに時間がかかるように、余裕がある時間配分であれば、とも思いました。それぞれの班が時間を有効に使うために、目安の到着時間に遅れそうな時は早めに連絡があると良いとも思いました（特に3日目）。

最後に、カメ班 を設定してくださり、参加できたこと大変感謝しております。

